



Gold-QPD 関連のお知らせ

- 高齢者の「ケア」と「キユア」を担う「キューピッド」鍼灸師 -

TOPICS

【公開講座セミナー：三焦鍼法は顕著な効果がある】

日本医科大学田尻孝学長をお迎えし第4回認知症Gold-QPD育成講座の中でセミナーが開催された。三焦鍼法の施術効果について4名の施術者が詳細な体験を発表した。

症例1：血管性認知症＋高血圧 73歳男性（第3期生 原正輝）

症例2：血管性認知症＋右半身不随と発音障害 94歳女性（第1期生 青木晴美）

症例3：アルツハイマー病 86歳男性（第2期生 矢野司）

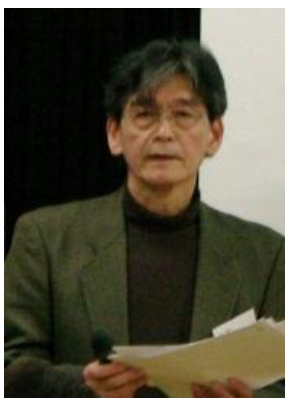
症例4：アルツハイマー病＋虚血性心疾患 92歳女性（第1期生 武田伸一）

その後、施術に立ち会われた今真由美主任看護師（和楽館）とご家族代表木村敦子氏（舞浜倶楽部）が加わり患者さんの具体的変化についてフロアの質問を交えて総合的な討論を行った。

NewsLetter 23にあるように血管性とアルツハイマー型認知症患者さんは、数回の施術で感情のムラが少なくなり、高齢者特有の不定愁訴が軽減した。4回目までに、ほとんどの方が頭がすっきりし気持ちが悪くなったと訴え術中に居眠りをするようになった。人によっては計算力が改善し五角形の模写において立体感も出てきた。2か月を超えるころには施術者と良い関係を持つとの意識が働きはっきりとし、言葉による会話のキャッチボールが可能になることが多い。家族は本来の患者さんらしさを取り戻し安心し喜びが大きくなる。また、介護士さんも世話しやすくなり施設も人手不足を補えることになった。下腿浮腫、嚥下障害など種々の不定愁訴から解放されるためうつ傾向が改善されることに明らかでそのため笑顔が見え患者さん自身も冗談を云うようになった。

尊厳を持った人としての価値（QOL）の改善がとくに目覚ましかった。この治療成績は施術本来の単独効果によるのか、接遇法に熟達したGold-QPD研修生の時間をかけた面談が功を奏したのか話題と載ったが、毎日接しているキーパーソンは一緒にいても上記の効果をもたらすことは出来なかったことは明らかである。その他フロアからの質問も多く、検討課題について積極的に討議され大変有意義なセミナーとなった。

症例 1 発表者 (第 3 期生 原正輝)



症例 2 発表者 (第 1 期生 青木晴美)



症例 3 発表者 (第 2 期生 矢野司)



症例 4 発表者 (第 1 期生 武田伸一)



今真由美主任看護師 (和楽館)



木村敦子家族代表 (舞浜倶楽部)



3人の座長との談笑の中に真剣な討議が行われた。

“三焦鍼法で患者さんが落ち着いたの？それともコミュニケーションの効果かしら？”

